太田市自分ごと化会議 2021
第 1 回　議事概要

日時	2021 年 11 月 20 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分
場所	太田市役所　3 階　大会議室
コーディネーター	千葉県市原市　企画部長　高澤　良英

凡例）コ：コーディネーター、委：委員、市：市職員

議事概要
■はじめに コ：初めに声を出す練習の意味合いも込めて自己紹介をしていただきます。お名前、お住まい、太田との関係（生まれも育ちも太田なのか等）今の心境をお願いします。また、マスクをしていると表情がわかりづらいので、自己紹介が終わりましたら拍手をする、同感の意見が出たらうなずくなどしていただき、みなさんで話しやすい雰囲気を作っていきましょう。 ■自己紹介 （省略） ■議論 【地域の困りごとや疑問、良いところの洗い出し】 コ：気楽な会なので、自分のペースで参加していただければと思う。いろんな思いをお持ちの方がいるが、わからないことがあったら気軽に聞いていただき、いい情報を持ち帰っていただきたい。この会議は 4 回シリーズだが、都合が悪い時は欠席してもかまわないし、1 度欠席したからと言って気にせず気楽に参加していただき、一人の市民、社会人として感じていることを話していただければと思う。地域コミュニティがテーマだが、地域といっても色々なレベルの地域がある。事前にとった最も意識している地域の単位のアンケートでは、自治会 32%、行政区 4%、太田市 52%、群馬県 12%でした。地域といってもこんなに差がある。冒頭で行政区についての説明があったが、皆さんが意識している地域の単位としてはわずか 4%となっていて、このことから行政の考えていることと市民のみなさんの感覚のずれも見て取れる。ここでの議論を通じて行政側として考え方のヒントを得ることも大切。他にも PTA や子供会などなどさまざまなコミュニティがあるが、今地域でどんなことに困っているかをまずは洗い出したい。区長さんがどんな人か知っていますか？（委員挙手）どうして知っているのですか？ 委：春に地区の役員の人が変わったときにみんなで集まる場があり、そこで報告、紹介が

ある。

コ：区長さんを一言でいうとどんな人？

委：地区の冠婚葬祭の連絡や組長会議の場をまとめている。

委：市とのパイプ役。

委：高齢の方がやっている、または男性のイメージ。

コ：身近なところで役員のなり手がいない等の困りごとは出てきていたが、その他に困っていることはありますか？

委：高齢者の方が増えていて、認知症の方がいたりするのでそのケア。また、高齢者にとってはごみ捨ても大変。

コ：ごみ捨てに関して何か助ける策は行政としてあるのか？

市：シルバー人材センターに５００円で 1 時間程度の作業量のごみ捨て代行サービスがある。

委：ごみステーションに大きい段ボールが 2.3 か月そのままになっている。“このゴミは持っていけません”の張り紙はあるがずっとそのまま残っている。ある程度の時間が過ぎたら行政側が片付けてくれるのか、ずっとそのままなのかわからない。

コ：行政側としてはルール違反をしているものであり、回収してしまうことにより癖になってしまっても困るので回収しないというスタンスなのだと思う。

委：環境委員や区長さんに相談すると、行政に話がいくかもしれない。

委：地域の子供増えてきているが、家の前の道路が狭い。事故の心配もあるが何か対策等をしているのか心配だが、どうすればいいいか、どこに相談すればいいかわからない。

委：私の場合は家を建てるときにセットバック制度を利用した。将来的には側溝が作られて消防車救急車なども入れるようになる。（地区として取り決めがある）あとは区長さんを通じて議員さんに相談していくのも一つの手。

※セットバック制度
建築基準法では、家を建てるための土地には接道義務があり、4m 幅以上（地域によっては 6m 幅以上）の道路に 2m 以上接していなければならない。行政としては「防災」について考えると消防車が入れるような道路が整ったまちづくりをしたいと考えるが、自動車が一般的ではなかった昔は、1 間（約 1.8m）あるいは 2 間（約 3.6m）といった昔の基準で整備された道路がたくさんあり、今でも多く見かけられる。行政は道路を 4m 確保したいところですが、現在住んでいる人にいきなり「道路分の土地を明け渡して建て替えてください」というのは難しいので、「いずれ建て替えるときに土地を後退（セットバック）して建ててください」とお願いするというもの。

コ：困ったことをそのままにするのではなく、解決するかはわからなくても区長さん等に相談するのも一つかもしれない。自分の土地をセットバック制度で寄付して問題を解決するというのは、その問題を自分ごと化して解決していると言えるのではないか。

委：見通しの悪いところにミラーの設置をしてもらいたい。区長さんを通じて行政に設置してもらう必要があると感じる。

委：親の土地に子供が家を建てるケースがあるが、敷地に家を建てた子供世帯は区費を払っていなかったりするが、その世帯もごみは当然捨てている。また、外から入ってきた世帯は班長等の役目をやらなければいけないが、そういった世帯は親の世代が参加しているので、親が亡くなるまでそういった地区の役に参加もしていない。このようなケースも多く、それってどうなのかと感じてはいるが、波風立てたくはないから我慢している。

委：外から来た立場とすると地区のことや、学校、行事などについて何もわからないが、たまたま私の場合は引っ越した先の周囲の昔から住む人が親切だったので地区のことを教えてくれて助かった。環境によっては外から来た人は地域の情報が手に入りづらいケースがあるのではないか。

コ：つながり（人間関係）＝情報という面はあると思うし、それによる問題もあればいい面もあると思うが、感じ方は人それぞれだと感じる。親世帯と子世帯のような世帯の考え方についてどう思いますか？

委：うちは二世帯だが、家庭内で地区の役員は交互にやるようにしたり、どちらの世帯も参加するようにしている。先ほど出たごみ出し問題については、区費を払っていなかったとしても市民税は払っているだろうから、そのあたりを考えると難しい部分もあるように感じた。

委：地区にはゴミステーションのカギを開ける役（持ち回り）、地区の役員や草刈りなどの行事もあるが、参加者の高齢化の問題も出てきている。そんな中、2 世帯で親世代のみが出てきていて、子世帯が出てこない世帯が多くいる中で、外から引っ越してきた若い世帯に対して「若いのだから参加しろ」と言われるケースがある。このようなケースに対しては不公平感を感じることがある。

コ：不公平感という意味では、2 世帯の家庭も両方の世帯が参加してくれれば、例えば鍵開けのような持ち回りの役に関しては分母が増えるため負担感の軽減につながるかもしれないですね。

委：ごみの出しかたについて、資源ごみを捨てられる日が少ないと感じる。また、資源ごみを出そうと思ってもすでにいっぱいで出せないことがある。

委：資源ごみをごみステーションでなくスーパーなどの回収 BOX などを利用することや、行政センター等に持っていくのも一つの手段。資源ごみの日を待たなくてよいメリットもある。

委：うちの地域では倉庫に資源ごみを集めてまとめて行政に持っていき、その見返りにごみ袋を地域の人に配布したりした。

コ：自助公助共助ということば知っていますか？

委：自助は自分たちで、公助は行政が、公助は自治会や隣組で助け合うこと。ゴミステーションの管理などは公助の典型的な例。

コ：ここで言いたいことは、世の中の困っていることを解決しようとしたときに、どこかの力だけで解決しようとすると難しくなりがちだが、この三つがバランスよく成り立っていると解決しやすくなったりするということ。（資源ごみの話であれば、自分でゴミステーションに出しに行ったり、行政センターを活用したり、スーパーの回収ボックスを活用したり）

委：こどもを育てやすい環境ではあると思うが、個人的には水族館などを作ってほしいと感じている。そうすれば子供を連れていける場所が増える。

委：区長さんの顔、住んでいる場所、年齢もわからない。今までの話を聞いて区長さんが

どの方なのか知りたいと思った。近隣で野焼きやごみを燃やしている人がいるが、そういった困りごとをまずは区長さんに相談してみたいと思った。

コ：区長さんのなり手はどうやって決まっている？

委：地区によってだが、選挙をするケースもある。立候補はほとんどないので推薦で行う。

コ：3、4 人のグループになり各グループで「今、地域で起こっている困りごと」について１５分程度話していただき、その後発表していただきます。

～グループ討議～

委：①登校途中の旗振り、危ない場所が 2 か所あるが 1 か所にしか人が立っておらず、もう一つの場所にだれか立ってくれないかと思っている。

委：①移動手段、車がないと何もできない。交通事故の問題や、高齢者は免許を返納してしまうと移動しづらくなってしまう問題もある。公共の交通機関はあまり便利でない。②情報の問題。子供が学校に通っているときは学校経由で色々な情報が入ってくるが、それ以外の情報源としては広報などがメインとなっている。若い人はあまり広報になじみがないと思われるので、若い世代向けに SNS 等での情報発信があるとよいのではないか。③公園などでの子供のマスクを着用するしない問題があるが、個人の見解で賛否が分かれるので、そういった問題には行政側看板を設置するなどしてルールを設けたらどうか。

委：①ごみ問題、引っ越してきても自治会からゴミ出しのルール説明等もなく、出し方もわからないし回覧板も回ってこない。日本語でしか書かれていないため、外国人の方は理解できない。ごみステーションのカラスの問題。そもそもこの時代であれば、紙の回覧板以外に情報を伝える方法があるのではないか。②狭い道路のところで家から木がはみ出ていたりするが、誰に相談したらいいのかわからない。③不審者情報が届くが、こんな時代なので仕方ないのかもしれないが、少し声掛けしただけで不審者になってしまうのか、不審者の定義の話も出てきた。

委：①猫の問題。犬は登録が必要なのに猫は登録の必要がないのはなぜか。猫に餌をあげてしまう人がいて繁殖してしまったり、フンの被害で困っている。市に相談してもたらいまわしになってしまう。②地区の役員の数が多すぎるのではないか。地区によって必要・不必要違と思うので、実情に合わせて変えられないのか。③地区のイベントに参加する人

が減ってきているので、いくつかの地区をまとめてイベントを開催できないか。地域によってはイベントを開催するためにその役に付いた人がイベントに参加せざるを得ない状況もある。柔軟にイベントを合同開催することなどで持続性が生まれるのではないか。

委：①役員のなり手がいない。②区長も組長も誰なのかを知らない。アパートに引っ越してきた人等には案内がいかないケースもあり、引っ越してきた人を把握してお知らせをする必要性があるのではないか。また、地区と区長、地域の市議会議員とのつながりも大切なのではないか。

委：①大雨冠水時に見回りの消防車がはまってしまったことがあった。冠水しやすい場所がなかなか改善されない。また、下水道が整備されていない地区は大雨になると道が川のようになってしまう。災害が増える中そういったところの対策をしてほしい。②地域の高齢化により委員のなり手がいない。また、地域のつながり、子供会活動もあまりなく、つながりが希薄化している。

【まとめ】
コ：ここまでたくさんの困っていることやいいことも出していただいた。（上記のさまざまな問題の振り返り）地域の反対とは？

委：世界、全国、など。

コ：地方と都市の違いは？

委：都市は移動の利便性が高く、地方はその利便性が低い。

コ：逆に地方にあって都市にないものは？

委：人と人のつながり。

コ：地方の人にとって人のつながりによって情報を得て問題を解決できるケースがある。もし地方の人にとって不便なことがあったときに、地域や人のつながりがないと大変だと思いませんか？消防団やられている方いますがどんないいことがありますか？

委：地区のつながりがあって楽しい。

コ：職場等とは違うつながりがあって楽しいですよね。職場や家庭とは違ったサードプレ

イスといった感覚。役員の話が多く出てきたので、次回はどんな役員があるかの説明をもらおうと思います。ほかに何か知りたい情報がありますか？

委：行政でできることとできないことの洗い出しはしているのか？

市：各課で陳情等は把握しているが、その一覧のようなものは浮かばない。

委：各課ではなく市としてまとめて横断的に把握することも必要なのではないか。要望の一覧や対応できたもの、できなかったものの一覧があった方がよいのではないか。

コ：各課ではなく、市として横断的に考える姿勢が大事ということだと思う。また、自助公助共助の考え方において、行政でできることとできないことはどんなことかを把握することも大事。

委：この地域は高齢者が多い、この地域は子育て世代が多いなど、地区ごとの特性がわかる何かあるといいのではないか。そうすると地域の実態に体制を取ることが出来るのでは。

コ：最後に、今日の感想はどうですか？

委：年上の人（大人）と話す機会は先生くらいしかないけど、自分意見を言うのが得意でないこともあり、意見するのは難しいなと感じたが、他の人の話を聞くことで地域のことを自分ごととして考えたいと思った。

コ：意見を言わなくても、意見を聞くだけでも全然かまいません。聞くこともとても大切なので、構えずに気楽に参加してくださいね。

委：利害関係なく色々な話ができてよかった。

委：太田を盛り上げることに貢献出来たらなと思ったし、もっとこういう機会が増えたらいいと思った。

委：若い皆さんの声を聞けたので、自分の地域に持ち帰って還元できたらと思った。

コ：地域総務課から一言どうぞ。

市：窓口や区長さんから声を聞くことはあったが、こういった形で皆さんの声を聞くことができ勉強になりましたし、楽しかった。嬉しい話もあれば耳の痛い話もあり、そういった意見を参考にしながら、残りの会も楽しく参加できたらと思います。